KER26-002-018 (0)

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

環境保全報告書(令和7年度)

2026年6月

新明和工業株式会社
航空機事業部　甲南工場

環境保全事務局

1. 重点課題の取組みに係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

環境目的			2025年度 年度計画	2025年度 年度実績	評価	備考
1 気候変動への対応			－	－		－
	・CO2排出量削減	CO2排出量※ [t-CO2]	年間：9,722以下	8,660	◎	**目標値に対して達成。**（省エネ法のエネルギー原単位も、前年度比▲1%以上を達成。）
2 廃棄物削減とリサイクル			－	－		－
	・排出量の削減	廃プラ排出量※ [t]	年間：209以下	**197（売却用保管品の緊急処分：30tを除く）**	◎	**目標値に対して達成。**（廃プラ排出量原単位も、前年度比・5年次平均ともに▲1%以上を達成。）
3 その他（継続的な取組み）			①：環境法令に基づく有資格者確保及び設備点検/管理、省エネ施策実施 熱中症対策に係る安衛委との協業 ②：環境測定、緊急事態訓練の実施	①：問題無し ②：問題無し	○	・より効果の大きい設備改善系省エネ施策の検討～実施に引き続き注力する
	・基本と正道の徹底 ・人材育成 ・グループ会社とのシナジー		③：教育の充実 ④：（ウィング）EMS編入に係る取組み	③：e-ラーニング一般教育3件、内部環境監査員養成講座を実施。 ④：（ウィング）のISO取得意向（現在：不要）は継続して確認中。		・環境教育月間（6月と2月）を設け、引き続き教育の充実に取り組む。

凡例　◎：目標達成、　○：前期より改善、　△：変化なし、　×：悪化

※　**航空機事業部全体**（神戸市：甲南工場、神戸市以外：徳島工場・宝塚工場・播磨工場）の計画・実績。
CO2排出量は電力消費量に**社内基準の係数**を掛けて算出。（温対法報告基準ではない。）

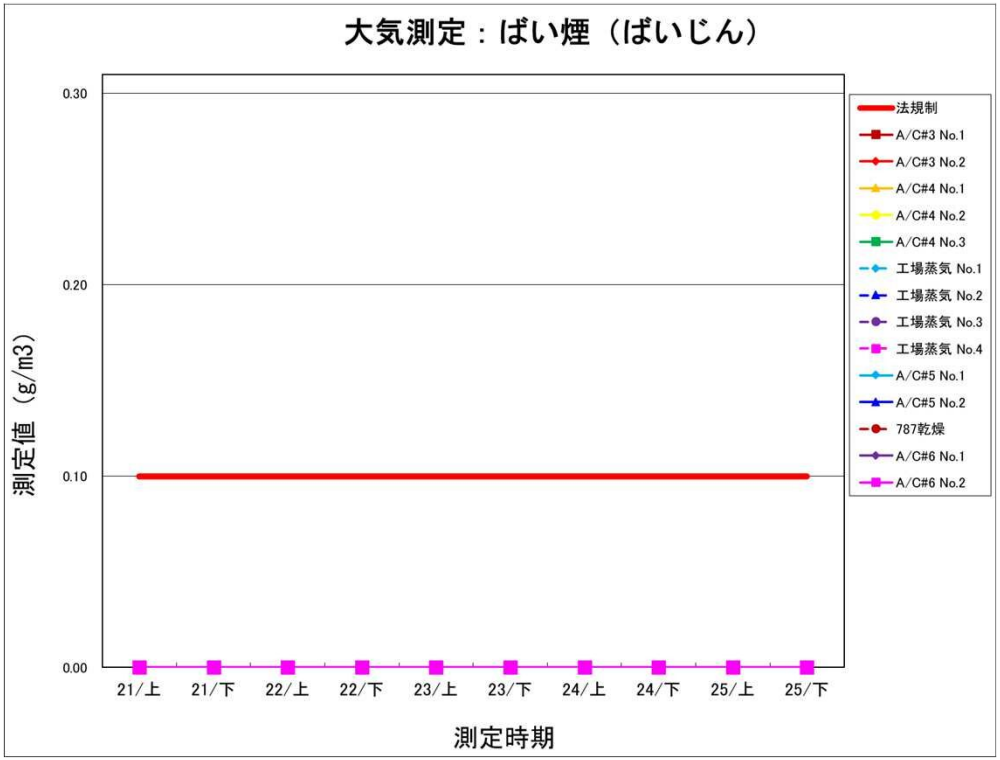
2. 公害防止対策に係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

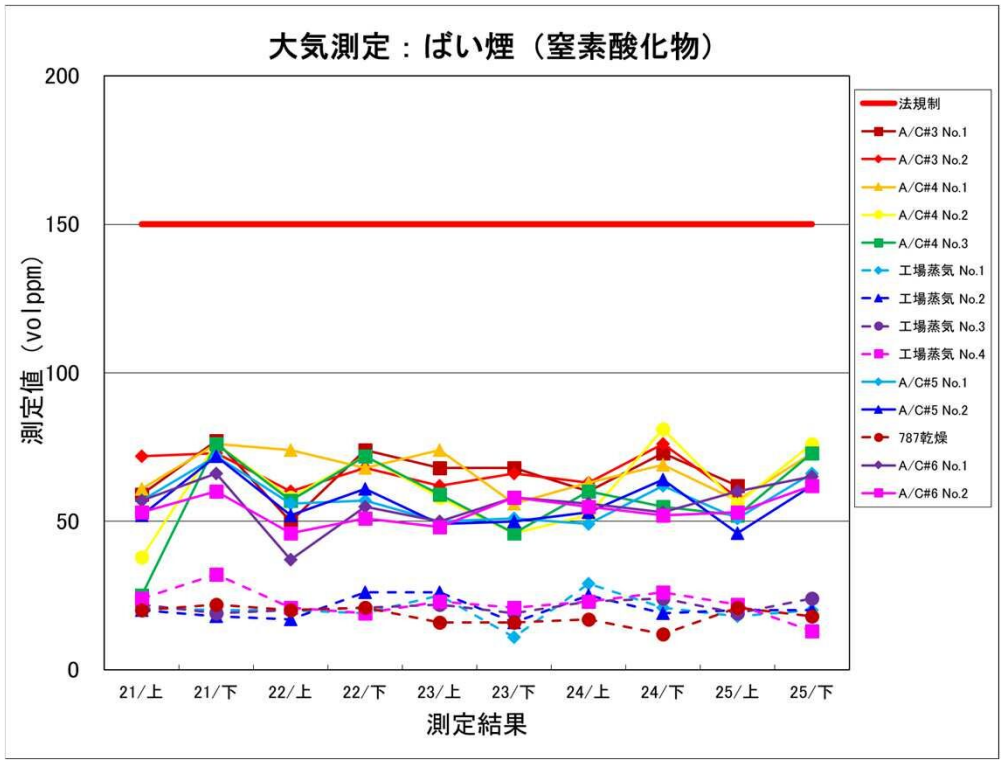
公害上の分類	管理項目	管理方法	目標達成のために講じた措置・対策	測定結果	評価
大気汚染	・ボイラー燃焼で発生する窒素酸化物、ばいじん ・洗浄施設で発生するVOC ・塗装設備等で発生する廃ガス	社内「大気管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・ボイラーメーカによる定期点検を継続実施。 ・遠隔監視システム契約を継続し、常に最適な燃焼状態を維持。 ・設備作業前点検を順守、排気フィルタ類は定期的に清掃・交換を実施。	定期測定結果は結果①参照 測定対象無し	○
水質汚濁	・生産系排水 ・生活系排水 ・雨水排水	社内「水質管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・24時間連続監視による兆候管理を継続。 ・定期採水分析による監視を継続。 ・雨水側溝の清掃点検を実施。	定期測定結果は結果②参照	○
騒音・振動・悪臭	・敷地境界線における設備騒音 ・飛行艇エンジン運転時における管理基準の順守	社内「騒音・振動・悪臭管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・騒音定期測定(2回/年)を実施。 ・飛行艇エンジン運転時の日時順守を徹底する。	定期測定結果は結果③参照 測定対象無し	○
産業廃棄物	・産業廃棄物 ・特別管理産業廃棄物 ・事業系一般廃棄物	社内「廃棄物管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・廃棄物置場の定期巡視による飛散、漏洩の防止 ・廃棄物処理業者の視察による適正処理確認	定期巡視の継続実施により問題なし マニフェストの終了確認及び業者聞取りにより確認	○
土壌汚染	・有害物質使用特定施設	社内「土壌管理基準」に従い、有害物質使用特定施設の定期的な点検を実施し、問題があれば速やかに改善を行う。	・有害物質使用特定施設について定期的な点検を実施。	特定施設の定期点検結果、問題無し	○

2. 公害防止対策に係る報告

2-1. 定期測定（結果①：大気汚染）



ばいじん

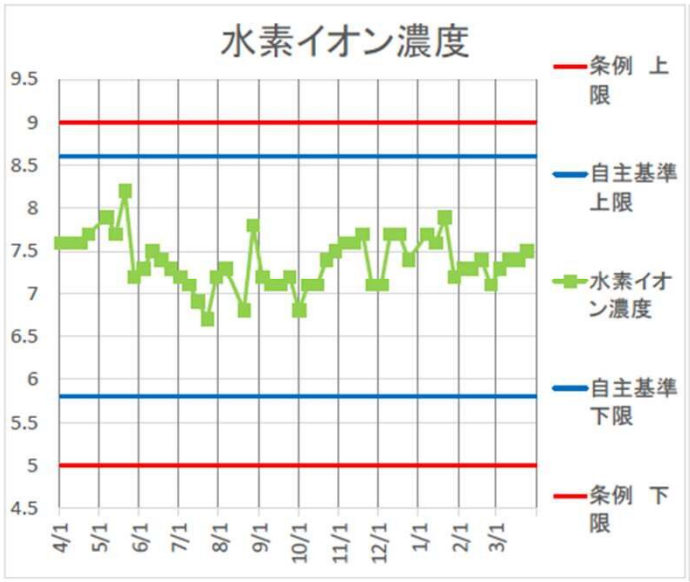


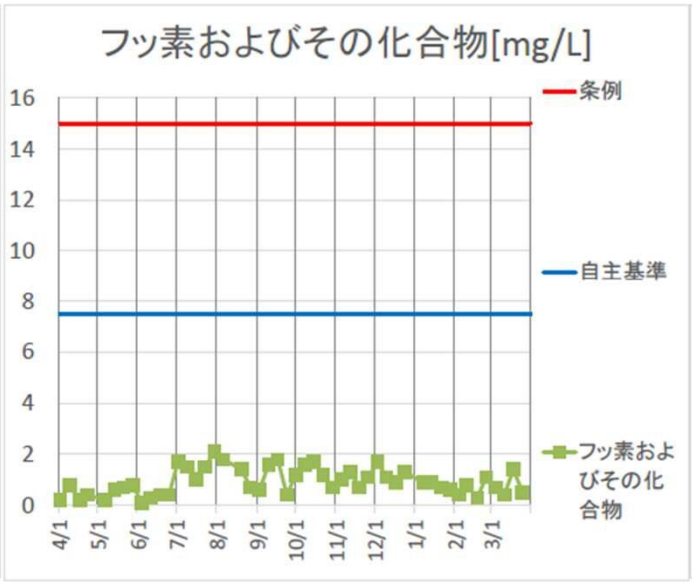
窒素酸化物

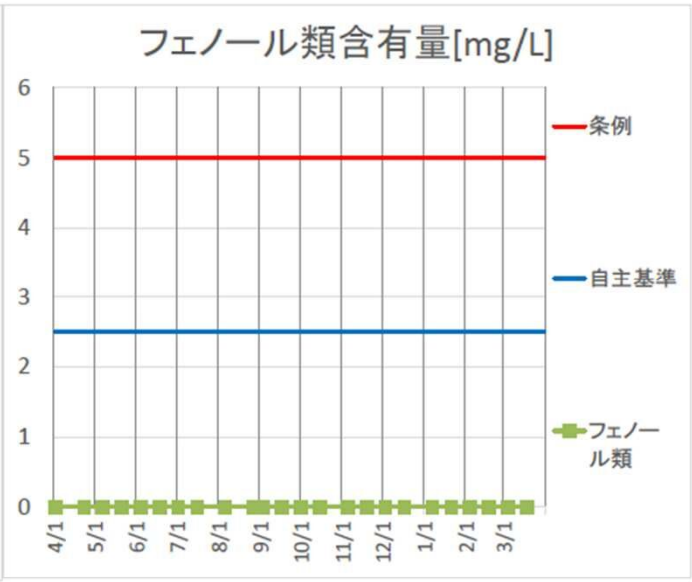
2. 公害防止対策に係る報告

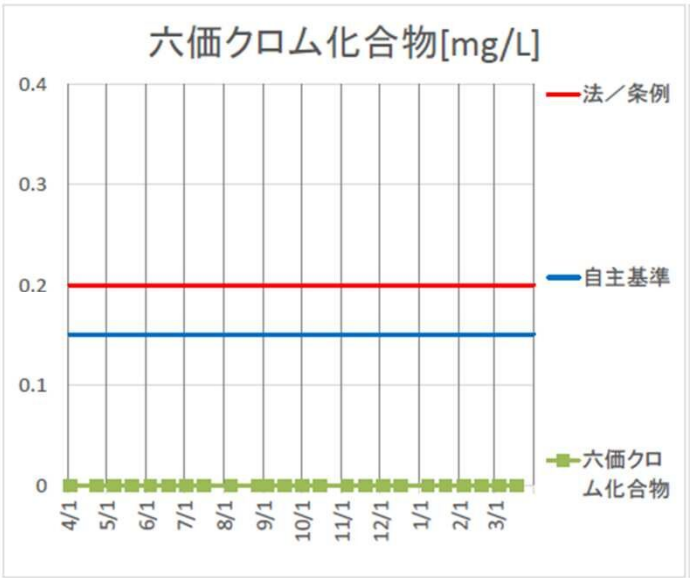
ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

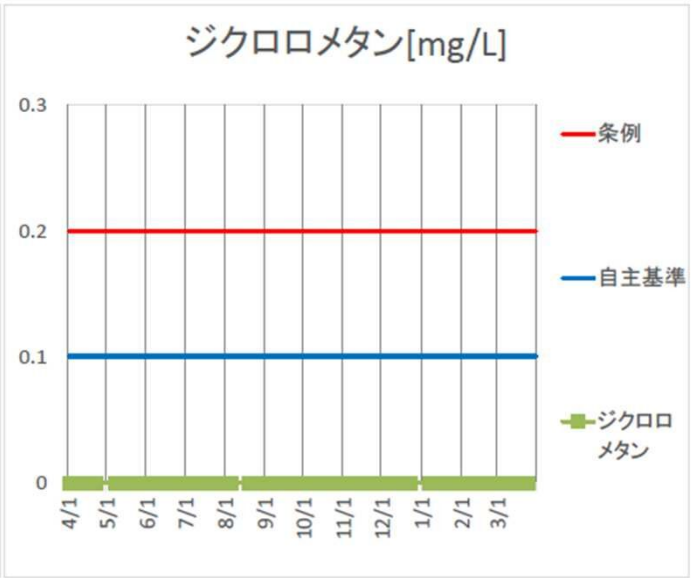
2-2. 定期測定（結果②：水質汚濁）





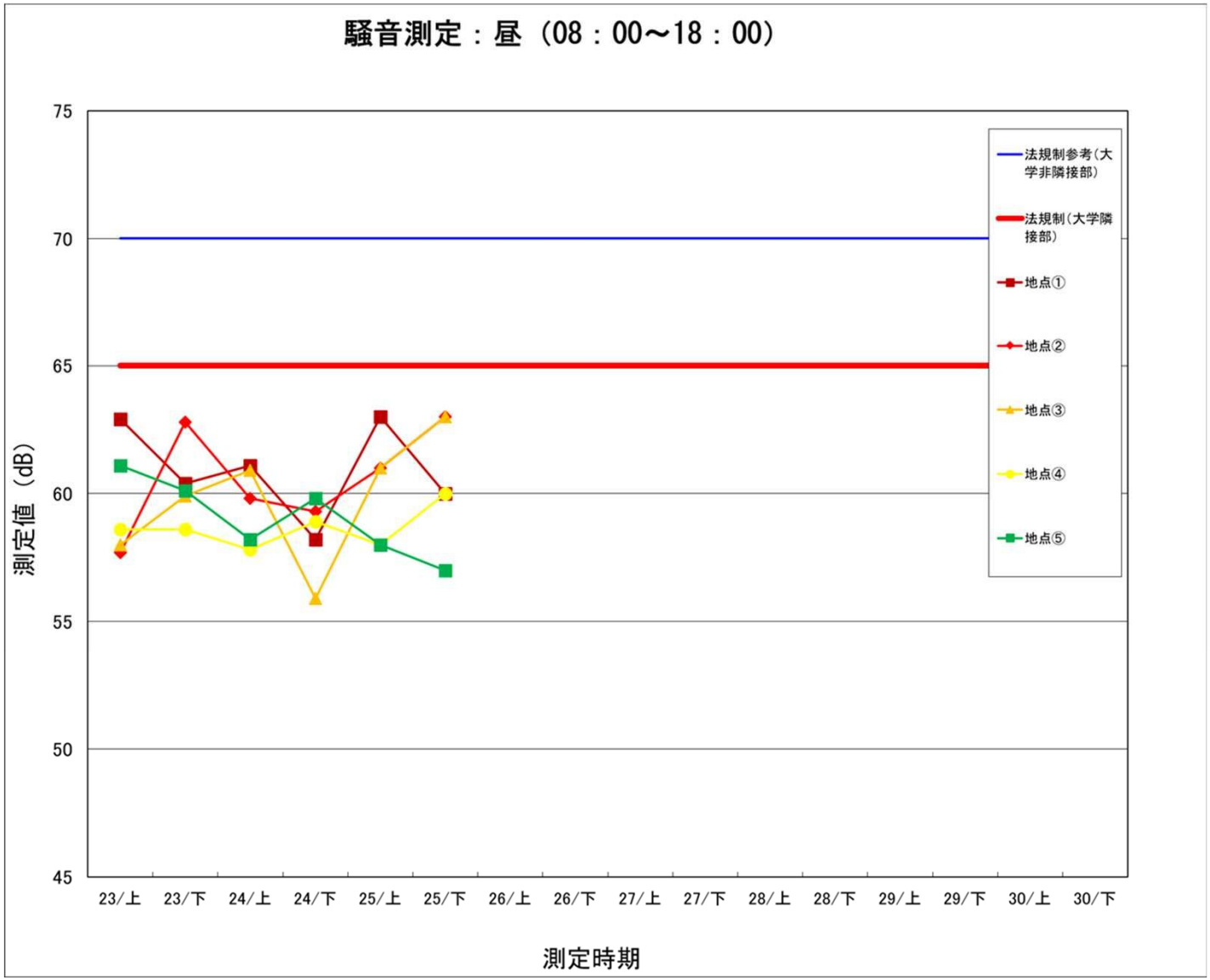






2. 公害防止対策に係る報告

2-3. 定期測定（結果③：騒音）



※早朝、夜間の操業停止などを考慮し、昼間のみ結果を示す。

3. 地球温暖化対策に係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

3－1. 電気・燃料等の使用量、温室効果ガス（CO2 のみ）排出量

（甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より）

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量 (MJ)	排出係数 kg-CO_2/MJ	排出量 kg-CO_2	温暖化係数 CO_2	合計 [t-CO2] (CO_2換算)
燃料の使用	原料炭			28.9	0.0898			
	一般炭		kg	26.1	0.0891			
	A重油		ℓ	38.9	0.0708			
	B重油		ℓ	41.8	0.0741			
	C重油		ℓ	41.8	0.0741			
	LPG	202	kg	50.1	0.0598	605	1	0.6
	都市ガス	1,173,804	Nm^3	40	0.0513	2,410,211	1	2,410.2
	ガソリン	1,200	ℓ	33.4	0.0686	2,748	1	2.7
	灯油	4,770	ℓ	36.5	0.0686	11,938	1	11.9
	軽油	495	ℓ	38.0	0.0689	1,296	1	1.3
	その他（廃棄物等）		kg					
電気事業者から供給された電気の使用		15,072,332	kWh		0.415 (kg-CO2/kWh)※	6,255,018	1	6,255.0
		6,459,573	kWh		0.000 (kg-CO2/kWh)※	0	1	0.0
熱供給事業者から供給された熱の利用			MJ					
ドライアイスの使用		874	kg			874	1	0.9
合計								8,682.7

※電気に係るCO2排出係数: 温対法報告での基準（排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数）
電力使用量の30%をCO2フリーとして扱う需給契約を適用中。

3. 地球温暖化対策に係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

3-2. 当該年度の計画達成状況 （単位：t）

（甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より）

温室効果ガス	基準年度 排出量(a) 2017年度	現況 排出量(b) 2025年度	2030年度目標	
			抑制目標量(c)	達成率(%)
二酸化炭素※ (参考:電力のCO2排出係数)	18,831.9 (0.453)	8,682.7 (0.415)	11,675.7 (0.250)	141.8
メタン	0.6	0.9	0.4	▲130.2
一酸化二窒素	0.1	0.0	0.1	204.7
HFC	2.5	23.2	1.5	▲2,199.9
PFC	0.0	0.0	0.0	−
六フッ化硫黄	0.0	0.6	0.5	−
三フッ化硫黄	0.0	0.0	0.0	−
合計	18,835.1	8,707.4	11,678.3	141.5

※電気に係るCO2排出係数: 温対法報告での基準（排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数）

達成率(%) = {(a)-(b)} ／ {(a)-(c)} ×100

3. 地球温暖化対策に係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

3－3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

抑制措置 大分類	具体的対策	削減目標／削減量	実施状況
省エネルギー等 低炭素型事業 活動の徹底	a)電力使用量の予実管理データをより詳細に提供 b)CO2フリーエネルギーの適用拡大 c)空調機器など点検、室外機の熱交換器洗浄 d)コンプレッサの適切な点検・運用 e)24h空調設備の台数間引き／操業に 応じて一時休止 f)生産活動の効率化(残業・休出の縮減) g)照明・OA機器の消し忘れ防止(昼休み・夜間) h)空調の適正な使用(夏期:28度、冬期:20度) 等の定着した節電活動	電力:▲320千kWh/年 の達成 電力:7,056千kWh/年 をCO2フリー化	**電力:▲680千kWh/年 達成** a)継続して運用・管理実施中。 b)電力の30%をCO2フリーとする 契約を更新・継続中 **6,460千kWh/年 をCO2フリー化** c)～e) 省エネ促進に係るコンサル 受審により活動徹底 f)～h) 継続して運用・管理実施中 ※その他蒸気漏れ・エア漏れの修理 断熱未施工部の断熱施工
製造設備又は 事務所ビルの 低炭素化	a)LED照明導入などの照明機器更新 b)R22フロン使用機器の更新 等の効率化機器適用		a)LED照明更新実施中 (400型水銀灯→LED灯具へ) b)空調機器更新を逐次実施中

4. その他環境保全活動に係る報告

ShinMaywa
VISION WITH INSIGHT

(航)ESG No.	ESG重要課題	項目	細目	25年度目標	25年度結果	評価
3	環境にやさしい製品	・有害化学物質の適正管理と削減	使用量の削減 低環境負荷材料の理解 含有物質算出精度の向上	購入量・使用量・廃棄量の調査及び集計を継続 適用法令(海外・国内)のより深い理解の推進	顧客・官公庁等による禁止物質含有有無に係る問合せに、適切に対応。	○
4	気候変動への対応	・フロン適正処理	定期点検によるフロン類漏洩の予防保全を実施	全数(100%)	100%自主点検実施	○
5	水質・土壌の安全管理	・廃水処理・表面処理での事故撲滅	予防保全実施による突発事故の撲滅	事故0	外部への流出事故0	○
		・PCB管理	棚卸し実施、保管状況の確認	現在保管品無し。PCB含有疑義品は判明都度対応。	同左 疑義品交換実施中	
7	廃棄物削減とリサイクル	～産業廃棄物～ ・発生量の抑制 ・排出量の抑制 ・埋立量の削減	積層プログラムの改善による複合材料使用量を削減 有効期限付材料の購入量適正化 有効期限付材料の廃棄管理徹底 有価物化の推進 廃プラの分別徹底 ガラス・陶器類のリサイクル業者の開拓	705t/年(事業部全体)	**804t/年** **(特管148t含)**	×
				4.7t/年(事業部全体)	**3.7t/年** (リサイクル率基準は達成)	○
		～一般廃棄物～ ・排出量の抑制 (「可燃ごみ」)	紙、プラスチック類、缶、ペットボトル類の分別回収推進による排出量削減・勉強会	6,500kg/年	**6,495kg/年**	○
			回収時の立会チェックと分別指導	随時	随時実施	
12	人材育成	・必要資格保有者の育成・確保	公害防止管理者(水質関係)資格の拡充	各分野におけるe-ラーニング実施体制の確立	e-ラーニング3件実施 (危険物ほか取扱・漏洩事故防止・フロン使用機器管理)	○
		・緊急時の訓練	表面処理、危険物貯蔵所、給油所での漏洩を想定した緊急時訓練を実施	各訓練項目で年1回以上	各訓練項目を網羅する形で、全4回実施	
14	コミュニティとの調和	～工場騒音の監視～ ・飛行艇エンジン運転試験の適正管理 ・工場設備の稼働状況監視	近隣自治会等へエンジン運転情報の連絡 エンジン運転スケジュールの厳守	苦情0	苦情0	○
			敷地境界での騒音測定実施	法規制値順守	超過0	
			一部設備の夜間早朝稼動制限を実施	自主基準値順守	超過0	
		～地域社会への貢献～ ・ボランティア活動への積極的参加	近隣地域や駅までの通勤経路等の清掃活動を実施	年1回(11月)	11月に実施	○
18	基本と正道の徹底	～ISO14001の維持管理～ 内部監査 定期サーベランス 見直会議	年1回以上実施 審査機関:日本環境認証機構 活動を振返り、将来への改善提案	年1回以上 7月 年1回以上	25/6月に実施済 7月に実施済 25/11月、26/5月に実施	○